

連載寄稿

在学時代の想い出

《第1回：機械科編》

佐藤 弘

(昭和40年機械科卒)



昭和37年4月1日、期待に胸を膨らませて、秋田工業高校の正門の前に立ちました。秋田工業に通った3年間は、人煙まれな山間の寒村出身の私にとって、それは夢のような楽しい毎日でした。ということで、私の人生のなかで、最も無責任に楽しかった3年間について、おぼろげな記憶をたどってみます。

【機械科の洗礼、校歌・応援歌の練習】

入学式の翌日、2時間目の授業が終わったら、いきなり2年生の人たちが大勢で私たちの教室になだれ込んできました。「みんな立て!!これから、校歌など応援歌練習する。おっさい声でうだえ!!」と言い、いきなり「太平山の凜たる雄姿・・・」と歌いだし、1回歌っただけで、「ひえ、おめがだうだってみれ。」といわれました。当然歌えるはずも無く、もたもたしていると、「物覚えわりがら気合いひでける。」と言ったかと思うと、片っぽしから往復ビンタ。「まだ来るがら。」と言って帰って行ったので、いつ来るのかと思っていたら、3時間目の終わったあとも、昼休みも来ました。「声ちっちえー」と言ってはビンタ、「姿勢わりい」と言ってはビンタ、という厳しい特訓でした。これが1週間続いたのです。おかげで、校歌を始め、副歌、ラグビーの歌など、50年以上経った今でも忘れない名曲をしっかりと習得することができました。大変にキツい「秋工機械科」の洗礼でした。

【甲子園での野球応援】

昭和39年春の、選抜高校野球大会に、我が秋田工業が初出場しました。ちょうど、関西方面への修学旅行だったもので、甲子園のアルプススタンドで第1回戦の応援をしました。相手は、尾崎将司を擁する徳島海南高校で、結果は4対1で敗れました。でも、1回の表に、トップバッターであった機械科のクラスメート佐々木昇選手が見事3塁打をはなち、大チャンスを迎えた時は大変な盛り上がりでした。結局徳島海南高校は優勝し、秋工は準優勝と同じだ、と強がりを言ったものでした。



S38年当時の校舎の航空写真



総合建設コンサルタント
(一社)建設コンサルタンツ協会会員

富士コンサルタンツ株式会社

取締役 東北統括本部長

野呂 昭光 (昭和37年土木科卒)

〒960-8071 福島県福島市東中央3丁目37番地1
TEL: 024(536)2042 FAX: 024(536)2080
E-mail: noro@fujicons.jp



【東京オリンピック】

昭和39年10月10日は東京オリンピックの開会式でした。学校もそれに合わせて、午前中で終わりました。私たちは仲間5人で、手形の友人の家にお邪魔し、テレビで世纪の開会式を見ました。各国の選手団の中で、最も統率がとれた日本選手団の堂々たる入場行進、天皇陛下の開会のお言葉、坂井さんの聖火台への点火、小野喬さんの選手宣誓などが、今でも鮮明に甦ってきます。また、大先輩の遠藤幸雄選手の大活躍に胸が熱くなりました。

【機械科の先生たち】

(1)タメ先生

板金の実習の先生は、佐藤為治さんといい、あだ名は「タメ」といいました。タメ先生は、兄たち(32M、37M)のことよくご存じで、出来の悪い私に「おめだば、兄貴たちみでえにもう少ししっかりやねばだめだ」と、折に触れ声をかけて下さいました。タメ先生の指導で、じょうごや塵取りを作ったのですが、私はどういうわけか半田付けが得意になり、就職してからも、トランジスタの特性を測定するための電子回路セットの配線をする時など大変役立ちました。

(2)カポネ先生

製図の先生は、木村成夫先生といい、あだ名は「カポネ」でした。そのころは一般家庭にテレビが普及始めた時代で、アメリカのテレビドラマがたくさん放映されていました。ボナンザ、ローンレンジャー、怪傑ジロなどと並んで人気があったのは、禁酒法時代のシカゴを舞台にした「アンタッチャブル」でした。FBIの隊長エリオット・ネスト、マフィアの親分アル・カポネの対決の物語で、カポネもネストも、長い外套を着用し、中折帽をかぶって登場するのです。木村先生は、冬になると、カポネやネストと同様、上等そうな長いオーバーを着て、中折帽を目深にかぶり、ゆったりと歩いて通勤していました。殆ど笑顔を見せず、いつもむつりとしている木村先生は、まさに「カポネ」そのものでした。



S38年当時の機械科実習室

(7)機械科の職員室

機械科の科長は、佐々木市郎先生で、いつも背筋を伸ばして、毅然として席に着いておられました。科長先生とはお話ししたことありません。原動機の先生は長老の若林先生でした。科長先生と若林先生はあだ名を付けるなど恐れ多い存在でした。機械構造と実習の機械仕上げの先生は工藤先生で、あだ名は紙面には記載できないユニークなものでした。

以上機械科の職員室には、合計11人の先生がおられました。みなさん仲が良く、明るく楽しそうな雰囲気でした。特に青海先生とタメ先生は大変に仲が良く、なにかの拍子に口げんかを始め、青海先生が「タメ、おめだばなにいとうござだ、だまつてれ!!」というと、タメ先生が「なにこのやぎみしあだま、生意気だごどいうな!!」とやり返し、お2人ともニヤニヤ笑いながら、いつ戻てるともしれないじゃれあいが続き、他の先生方は必死になって笑いをこらえていました。

この項で紹介させていただいた機械科の先生方のなかには、すでに鬼籍に入られた方も多いようです。心よりご冥福をお祈り致します。

【まとめ】

以上、おぼろげな記憶をたどりながら、思いつくままに書いてみましたが、躍り上がるほど楽しかった毎日を表現しきれなかったことが、心残りです。



S40年3月1日／卒業式当日校門



S40年卒業記念写真



47年ぶりのクラス会／H25年12月新橋にて

※写真提供：佐藤 黙(S40M)

◆業務内容

土木設計：道路・橋梁・河川・下水道・上水道・鉄道・公園
調査：測量・地質・橋梁点検

本 社 〒321-0954 栃木県宇都宮市元今泉4-18-10

TEL: 028(635)2770(代) FAX: 028(633)3502

東京事業本部 〒140-0004 東京都品川区南品川6-12-13

TEL: 03(3474)-0365(代) FAX: 03(3474)0402

仙 台 支 店 〒982-0013 宮城県仙台市太白区太白堂10-20

TEL: 022(395)6216 FAX: 022(395)6217

営 業 所 札幌・盛岡・秋田・山形・高崎・北陸・福岡